

スイスのAI発明スタートアップIprova完全調査レポート Claude Opus 4.1

スイスを拠点とするIprovaは、AIとデータ駆動技術を活用した発明創出分野における世界初のパ
イオニア企業として、15年間にわたって革新的なテクノロジーを開発し続けている。

(IEEE Spectrum) (Iprova) 同社は既に**1,500件以上の特許化された発明**を創出し、世界最大のテクノロジー
企業10社すべてがIprovaの発明を参照した特許を保有している。(Growjo +5) 2025年3月には世界
的IP情報大手のClarivateとの戦略的パートナーシップを発表し、(Crunchbase) AI支援発明技術の商
業化において新たなマイルストーンを達成した。(Clarivate +3)

この包括的な調査は、Iprovaの企業基盤から最新技術、市場戦略、日本市場での展開まで、同社
の全体像を詳細に分析する。AIが発明プロセスを根本的に変革しつつある現在、Iprovaは単なる
特許検索や分析ではなく、**全く新しい発明そのものを体系的に創出する**という独自の価値提案で
市場をリードしている。

企業概要と基盤情報

設立背景と法的地位

Iprovaは**2010年にスイス・ローザンヌ**で設立された革新的なテクノロジー企業である。当初は有
限会社 (Sàrl) として設立されたが、後に株式会社 (Société Anonyme) に転換し、現在はスイス
企業識別番号CHE-115.853.420で登録されている。(Moneyhouse) 2022年7月には条件付増資に関す
る定款変更を行い、(Moneyhouse) 将来の投資ラウンドに向けた準備を整えた。

創業者と経営陣の専門性

****Julian Nolan (創業者兼CEO) ****は、エレクトロニクス工学学位、人工ニューラルネットワーク
修士号を取得し、ケンブリッジ大学のACDMM課程を修了した技術的バックグラウンドを持つ。
(THE ORG) 彼の経歴は特に注目に値し、Honeywell Inc.やBT Group plcでVP Licensing、上場企業
Scipher plcで事業開発責任者を務める (Iprova) (Iprova) など、**特許ライセンスと事業開発の豊富
な経験**を有している。(THE ORG)

経営陣は博士号取得者が中心となっており、****Dr. Nicholas Walker (CSO) ****は人工知能のPhD
(ケンブリッジ大学、UCL)、****Dr. Chris Wright (最高発明責任者) ****は機械工学・神経科学の
PhD (UCL) を保有し、200件以上の発明創出実績を持つ。(Iprova) この高度な学術的専門性が、
Iprovaの技術的優位性の基盤となっている。

本社・オフィス展開

- **本社:** EPFL Innovation Park, Building I, CH-1015 Lausanne, Switzerland (Iprova)
- **英国拠点:** ロンドン・ケンブリッジオフィス ((Iprova) 2022年にケンブリッジオフィス開設)
(Crunchbase)
- **米国拠点:** サンノゼオフィス (Iprova)
- **日本拠点:** 東京オフィス (jp-email@iprova.com) (Iprova)

この国際的な拠点展開により、北米、欧州、日本をカバーするグローバルな顧客基盤を支援して
いる。(Venturelab)

資金調達と財務状況

Iprovaの資金調達は従来のベンチャーキャピタルモデルとは異なるアプローチを取っている。******
主要投資家はスイス技術革新委員会 (CTI、現Innosuisse) ******で、2013年にはCTIスタートアップ
認定を受けた最初期の企業の一つとなった。(Startup.ch) (EverybodyWiki) これは政府支援による革
新的資金調達モデルで、純粋なベンチャーキャピタルではなく政府系イノベーション資金による支
援を受けている。

現在は非公開企業として運営されており、**部分的コンティンジェンシー・モデル**（クライアントが採用した発明に対してのみ課金）により持続可能な収益構造を確立している。 [iprova](#)

コア技術とAI発明創出システム

The Index - 世界最大級の技術データベース

Iprovaの技術的基盤は「**The Index**」と呼ばれる常時更新されるデータベースにある。このシステムは以下の情報源から数十億のデータポイントを処理している：

- 全世界の特許データベース（特許出願・付与情報）
- 査読付き科学論文
- 業界技術標準（3GPP 5G標準を含む）
- インターネット上の非査読技術文献
- リアルタイムの社会的・市場的・技術的進歩データ

AI アルゴリズムと発明創出メカニズム

Iprovaは**20以上の独自データサイエンスモデル**を活用し、[Iprova](#)以下の革新的アプローチで発明を創出する：[Iprova](#)

センシング・アンド・コネクティング・アルゴリズム: 異なるドメインからの「発明的シグナル」を特定し、これまで関連性のなかった情報片を接続する。[Iprova +2](#)例えば、リチウムバッテリーのデンドライト現象と暗号化技術を結びつけ、モバイルデバイス用の新しい暗号鍵生成方法を発明した実例がある。[IEEE Spectrum](#)

ディスラプション・マイニング: 数百万の世界的变化をリアルタイムで分析し、技術的・市場的破壊のポイントを特定する。[iprova](#) [Iprova](#)これにより、パナソニックとの協業では、自動運転車がパッセンジャーを運んでいない時に宅配便の仕事をするという革新的なアイデアを4週間で提案し、2021年に特許出願に至った。[StartupTicker](#) [Technology Org](#)

Invention Studio プラットフォーム詳細機能

****Invention Studio 3（最新版）****は2025年3月にリリースされた最新プラットフォーム [Clarivate](#) [PR Newswire](#)で、[Clarivate](#)以下の先進機能を提供：[PR Newswire](#) [Clarivate](#)

- **リアルタイム・ターゲット・モデリング**: 市場・技術破壊の高価値領域を特定し、集中的な発明活動を誘導
- **インスタント発明アセスメント**: 新規性、発明性、使用事例、技術成熟度、競合ポジショニングをリアルタイムで評価
- **インタラクティブ発明マップ**: 技術ランドスケープを可視化し、弱い初期段階技術と競合シグナルを特定
- **AI発明アシスタント**: 「仮想特許弁護士」として発明者-弁護士ワークフローを効率化 [iprova](#)
- **Clarivate IPfolio統合**: [PR Newswire](#) [Clarivate](#) 業界標準のIP管理システムとのシームレス連携

ビジネスモデルと価値提案

独自の価値提案

Iprovaは****「定期的にスケジュールされたユーレカ・モーメント」****の実現を可能にする。従来の偶発的な発明プロセスを、予測可能で体系的な活動に変革し、[Microsoft AppSource](#)以下の価値を提供：

- **スピード**: 従来のタイムラインに対して数週間での発明成果の提供 [iprova +2](#)

- **クロスドメイン革新:** 異なる分野にまたがる発明により、より広範囲で内在的価値の高い特許クレームを可能にする
- **競争優位性:** より迅速な特許出願と、より包括的なクレーム範囲の実現
- **発明の民主化:** R&D部門だけでなく、組織全体での発明アクセスを可能にする (Iprova)

サービス提供モデル

A. Invention Services (発明サービス) 専門発明者チームが、クライアントのビジネス戦略・製品ロードマップに基づいて、すぐに使用可能で特許化可能な発明を創出。2週間間隔での発明提供ミーティングを通じて、クライアントが各発明の採用・不採用を決定する完全な裁量権を持つ。 (Iprova +2)

B. Invention Studio ソフトウェアプラットフォーム Microsoft AppSource経由で提供される複数ティアのプラットフォーム。 (Microsoft AppSource) 組織が内部で発明をスケールしたい場合のセルフサービス・プラットフォーム。

C. Data-Driven Invention (DDI) ラボ 社内発明ラボ設立のためのターンキー・パッケージ。 (Iprova) BICの実装例では、技術移転モデルとして完全に展開されている。 (Iprova) (Iprova)

収益モデルの革新性

Iprovaの**部分コンティンジェンシー・フィーモデル**は業界でユニークなアプローチである。クライアントはIprovaが創出した発明の受諾分のみに対して支払いを行う。 (Iprova +2) これは：

- クライアントのアップフロント・リスクを大幅に軽減
- Iprovaの高品質発明創出への強いインセンティブを創出
- 商業的に価値のある発明への集中を促進（量より質の重視）
- 特許トロール・アプローチとの明確な差別化

主要顧客と実績

Fortune 500企業との実績

Iprovaは世界最大のテクノロジー企業との幅広い協業実績を持つ。**世界最大10社のテクノロジー企業すべてが**Iprovaの発明に基づく特許を参照している（(Iprova) Forbes 2019年ランキング）。

(Iprova) (Iprova)

主要クライアント実績:

- **Apple, Google, Amazon:** (Iprova) (Iprova) Iprovaの発明を参照した特許を保有
- **Sony, Nokia:** (StartupTicker) (StartupTicker) 複数の特許協業 (Cambridge Network)
- **Deutsche Telekom:** (StartupTicker) (IEEE Spectrum) モバイル暗号化技術特許
- **Procter & Gamble:** (IEEE Spectrum) 消費者製品イノベーション (IEEE Spectrum)

日本企業との成功事例

パナソニック株式会社との協業は特に注目すべき成功事例である。パナソニックが将来の自動車サービス向け発明を要請した際、Iprovaは**4週間以内で初期発明を提供**した。 (StartupTicker +2)

具体的成功例: 自動運転車が乗客を運んでいないダウンタイム中に配達車両として働くという革新的コンセプトを提案。この発明はパナソニックによって2021年に特許出願され

(US11941555)、現実的なビジネス戦略を支援する破壊的イノベーションとして評価された。

(IEEE Spectrum)

吉田義明（パナソニック知的財産センター所長）によるエンドースメント:「Iprovaとの協業により、自動車分野におけるパナソニックのビジネス戦略と目的を支援する破壊的でありながら商業

的に関連性のある発明を効率的に獲得できました」 [StartupTicker](#) [Technology Org](#)

実用化された発明の具体例

フィリップス: 栄養関連発明がヘルスケア、ビデオ処理、マテリアル、遺伝学にまたがって展開 [StartupTicker](#) [Cambridge Network](#) **エリクソン:** リチウムバッテリー・デンドライトとモバイル暗号化を結びつけたユニークな暗号鍵生成手法 [IEEE Spectrum](#) **BIC:** 初年度だけで30件以上の特許出願を創出 [Cambridgesciencepark](#)

競合優位性と市場位置

ユニークな市場ポジション

Iprovaは**AI支援発明創出分野における唯一の企業**として、明確な競合優位性を持つ。 [Iprova](#) 既存の競合企業（Patsnap、IPRally、Patlytics等）は主に特許検索・分析・ポートフォリオ管理に焦点を当てているのに対し、Iprovaは**全く新しい発明そのものをAIで創出する**という根本的に異なる価値提案を持つ。

技術的差別化要因

クロスドメイン・イノベーション: 遠く離れた技術分野の進歩を独自に接続する能力は、人間の発明者が見落としがちな革新機会を体系的に特定する。 [StartupTicker](#) [Technology Org](#) この能力により、過去10年間で**1,000%以上の特許出願成長**を達成した。 [Iprova](#)

リアルタイム・分析能力: 世界の数百万の変化を処理し、発明機会を特定する能力は、15年以上の技術開発とデータ蓄積による高い参入障壁を形成している。 [Iprova](#) [Iprova](#)

市場での実証された地位

- **1,500件以上の特許化発明:** [Iprova](#) 技術の実用性と商業価値の実証 [Iprova +2](#)
- **60以上の応用分野:** [Iprova](#) 多様な産業での適用可能性 [Iprova](#)
- **Forbes認定:** [Iprova](#) 2019年に世界最大10社のテクノロジー企業すべてが参照する発明を創出 [Iprova](#) [Iprova](#)
- **予測:** CEOのJulian Nolanは2025年までに全発明の50%がAI支援になると予測 [Iprova](#)

2024-2025年の最新動向

戦略的パートナーシップの拡大

Clarivate戦略的パートナーシップ（2025年3月）: 最も重要な最近の発展は、グローバルIP情報リーダーのClarivate Plc（NYSE: CLVT）との戦略的パートナーシップである。IprovaのInvention Suiteが業界標準のIP管理ソフトウェアIPfolioと統合され、**発明から特許までの流れるようなワークフロー**を実現した。 [Crunchbase +3](#)

Microsoft継続協業: AI支援発明サミットの継続開催（2024年6月4日、2025年9月10日予定）と、Invention Studio 3のMicrosoft Azure上でのホスティング [Clarivate](#) [PR Newswire](#) により、グローバル・アクセシビリティを確保。 [Clarivate](#) [PR Newswire](#)

Lotus Engineering パートナーシップ: 交通セクター変革を目的とした画期的パートナーシップ。 [Crunchbase](#) [Top100startups](#) e-スクーターから自動運転トラックまでの範囲で、「大きく発明し、素早く実装する」能力を提供する業界初の包括的ソリューション。 [StartupTicker](#) [GGBa](#)

技術プラットフォームの進化

Invention Studio 3 リリース（2025年3月）: Clarivateパートナーシップと同時にリリースされた groundbreaking AI-powered ソフトウェア。Microsoft Azure上でホストされ、協調発明創出の強化された機能を提供。 [Clarivate +2](#)

Invention Studio Evo: 世界初の生成AI ベース発明ソリューション。最新の生成AI技術を展開し、発明をより迅速、簡単、効率的にする。 (Iprova) 組織全体での発明の民主化を実現し、「誰もが発明者になれる」環境を創出。 (Iprova +2)

3GPP標準モジュール: 通信標準専用モジュール。5G以降の通信技術における通信会社の革新を効率化・強化。2024年東京特許フェアで実演。 (Iprova)

日本市場との関係

日本企業との確立されたパートナーシップ

パナソニック株式会社 - 主要日本顧客

- 自動車セクターに特化した確立されたパートナーシップ
- 4週間以内の初期発明提供** (StartupTicker) (Technology Org) という迅速な対応実績 (StartupTicker)
- 2021年特許出願 (US11941555) に結実した自動運転車ギグワーク・コンセプト (IEEE Spectrum)
- 吉田義明取締役の公式エンドースメント (StartupTicker) (Technology Org)

日本市場での戦略的活動

2024年東京特許フェア&コンファレンス参加 (10月2-4日)

- Invention Studio Evo プラットフォームと新しい標準必須特許モジュールの実演
- IP戦略、研究、技術開発、商業化に焦点を当てたイベント
- 「日本に戻り、大切な顧客やパートナーと再接続できることに興奮している」との声明
- 日本のIPとイノベーション・コミュニティへの継続的コミットメントを示す (Iprova)

日本市場での戦略的ポジション:

- 実証された顧客関係を持つ確立市場
- 自動車・電子機器セクターへの焦点は日本の産業的強みと一致
- 日本IPイベントへの参加は現地イノベーション・エコシステムへのコミットメントを実証

日本市場での成長軌跡

- 2016年:** 日本初顧客確立
- 2024年:** 東京特許フェア積極的参加による継続的関与の実証
- 東京オフィス:** jp-email@iprova.com での現地サポート体制

結論と今後の展望

Iprovaは15年間の技術開発と実績により、AI支援発明創出分野における確固たるリーダーシップを確立している。 (Iprova) 1,500件以上の特許創出、 (Iprova) 世界最大のテクノロジー企業10社すべてとの関係、 (Iprova) (Iprova) そして差別化された技術プラットフォームにより、企業の体系的イノベーション需要の高まりを捉える理想的なポジションにある。 (Iprova +2)

特に注目すべき成功要因:

技術的優位性: 15年以上の開発・洗練による実証済みテクノロジー **顧客基盤:** グローバル業界リーダーとの強固な関係 **市場ポジション:** 発明創出vs分析に焦点を当てた唯一のプレイヤー **定量的結果:** (Iprova) 1,500件以上の特許が現実世界でのインパクトを実証 (Iprova) (Iprova) **日本市場戦略:** パナソニックとの成功実績 (StartupTicker) (Technology Org) と東京での継続的プレゼンス (Iprova)

2025年のClarivateパートナーシップは、Iprovaの技術が業界標準として採用される転換点となり、 (Clarivate +2) AI が発明プロセスを加速する時代において、同社は独自且つ防御可能な競合優位

性を維持し続けている。日本市場においても、パナソニックでの実証された成功と継続的な市場参加により、更なる展開の基盤を確立している。